

はれやま

晴山遺跡（上里遺跡群）第32次、第33次調査

所 在 地	二戸市石切所字晴山・台中平
調 査 原 因	新幹線二戸駅周辺地区土地区画整理事業
調 査 期 間	平成25年4月30日～8月20日
調 査 面 積	1,650 m ² (第32次調査 181 m ² 、第33次調査 1,469 m ²)
主 な 時 代	縄文、奈良、中世、近世
主 な 遺 物	縄文土器・土師器・陶磁器・鉄製品ほか

①遺跡の説明

晴山遺跡は、馬仙峡公園の北岸に広がる遺跡で、上里遺跡群の南西に位置しています。南側には馬淵川が流れ、すぐそばに大崩崖や国名勝に指定されている男神岩・女神岩があり、風光明媚な景色を呈しています。

周辺の遺跡としては、北側に鎌倉時代の方形居館跡^{ほうけいきょかんあと}が確認されている諏訪前遺跡や、弥生土器が出土している火行塚遺跡や大渕遺跡があります。

これまで中世の集落跡とされていましたが、近年の調査で、縄文時代や奈良時代の遺構も確認されています。

②調査の内容

晴山遺跡は、遺構密度は高くないものの、どの地点からも遺構・遺物が確認されることから全面調査を行いました。

重機で表土(30～60cm)を剥ぎ取り、遺構の確認できる面まで下げます。

そこで出てきた遺構を2等分や4等分に掘り、断面で埋め土の堆積状況を確認します。

遺物は、地区・遺構・層位別に分けて管理しています。

③調査の結果

第32次調査

竪穴住居跡1棟(奈良時代)、竪穴遺構1棟、小穴6個、遺物包含層(縄文時代)

第33次調査

竪穴住居跡1棟(縄文時代)、埋設土器遺構^{まいせつどきいこう}(縄文時代)、竪穴遺構4棟、土坑11基、小穴21個、近世墓42基

特筆すべき事項として、埋設土器遺構は、竪穴住居跡のすぐ東側に隣接して検出されました。土器は立位で埋設されており、土器を囲むように磨石が円形に並べられていました。(右写真)

